

ピースウィンズ・ショップから

JAS有機マーク付き・新パッケージの
コーヒーが味も新たに登場！

ピースコーヒーに新しい仲間が加わりました！黒くてスタイル
ッシュなラベルが特長の有機栽培レギュラー粉200gと有機栽培
ドリップバッグの2種類。更に！コーヒーは標高が高いほど美
味しいと言われているのですが、東ティモールの中でも標高の
高い村に産地を限定したスペシャルなコーヒーです。特別な日
やギフトには是非ご利用ください。

このコーヒーのパッケージデザインは株エーミライトデザイ
ン様の全面協力のプロボノにより完成いたしました。ステキな
デザインをありがとうございます！

新しく誕生した黒いピースコーヒーも末永くよろしくお願
いいたします。



PWJの活動にご協力ください

※認定NPO法人のPWJに対するご寄付は、寄付金控除の対象となります。

【郵便振替】

口座番号：00160-3-179641

加入者名：ピースウィンズ・ジャパン

※特定の地域・活動へのご支援の場合は、通信欄に国名等（東日本大震災の場合は
その旨）を明記してください。

【銀行口座】

●PWJの活動全般へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 青山支店

口座番号：普通 1671932

口座名義：特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン広報口

●PWJの東日本震災支援へのご寄付

銀行名：三井住友銀行 桜新町支店

口座番号：普通 6723184

口座名義：特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン

※領収書が必要な場合はご連絡ください。ご連絡をいただかない場合、銀行振
込ではご住所が分かりかねますので、領収書を発行できません。

コーヒーの味が
変わったのに
お気づきで
しょうか…

東ティモールで2013年
に収穫された新豆が日本
に順次到着しています。
これを受け、ピースコ
ーヒーの粉200g、焙煎豆、
ドリップバッグ、すべての
商品の新豆への切り替え
が完了しました！



実はコーヒーは農作物なので、ワインのブドウのよう
に毎年味が変わるので、今年も美味しいコーヒーだと
色々な方から嬉しい評価をいただいている。ぜひ一度
ご自身で味の違いを確かめてみてください。

消費税について / 2014年4月の消費税率変更を受け、
商品価格の改定を行う予定です。価格が決まりました
らホームページでお知らせいたします。

皆様からのご注文をスタッフ一同お待ちしております。

ご注文は、<http://pwshop.ocnk.net/>

同封のご注文用紙をFAXまたはTEL:03-5213-4073まで

※ピースウィンズ・ショップの収益はPWJの支援活動に活用されます。

書き損じはがきを支援に お役立てください

書き損じや未使用の「官製ハガキ」を回収し
ています。少量でも、どんなに古いものでも
結構です。ハガキを交換して得た資金をPWJの
支援活動に活用致します。PWJの東京事務所までお送りく
ださい。

〒102-0074

東京都千代田区九段南4-7-16 市ヶ谷KTビルI 5階
ピースウィンズ・ジャパン東京事務所 ハガキ寄付係

支援者
サービスの
窓

- 10/25 読売新聞に、PWJのシリア難民支援活動、PWJ深川のコメントが掲載
- 11/15 読売新聞、毎日新聞、中国新聞、山陽新聞に、PWJのフィリピン台風支援、スタッフ出動について掲載
- 11/30 中国放送で広島県神石高原町での災害救助犬育成・保護犬事業を特集
- 12/5 読売新聞にPWJ奥村が参加したフィリピン台風研究会が掲載
- 2/2 河北新報に、宮城県知事とPWJ西城らの対談が掲載
- 雑誌「ソトコト」1月号にて、歌手MISIAとPWJ角免らの対談が掲載

メディア
掲載報告

後自力 しの生活 再建、

— フィリピン台風被災者支援 —



2013年11月、フィリピン中部を襲った台風30号は、猛烈な風と高潮で6,200人以上
の命を奪いました。被災した家屋は110万戸にのぼり、その半分が全壊しました。

ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)は11月16日にスタッフ2人を派遣。現地のパートナー団体Citizens' Disaster Response Center(CDRC)と協力し、支援が十分に届いていなかったサマール島の5,000世帯に、米、豆、魚などの食料や毛布、石けんなどを配りました。PWJはこれまで洪水支援などでCDRCと連携を重ねており、そのことが今回の素早い調査や物資調達などに役立ちました。

物資を受け取ったグレゴリオさんは「台風の勢いはあまりにも強く、家の中にいても気圧差で耳が痛かった。屋根も壁も吹き飛ばされてしまったが、PWJの支援物資にはブルーシートも入っていたので、屋根の代わりに使って助かった」と話します。

年が明けてもフィリピンでは400万人以上が避難を続けています。家を自力で再建できる人はごくわずかで、収入源を失った多くの世帯は建築資材が買えないため、がれきの中から見つけた板などで補修するしかありません。この状況を少しでも改善するため、PWJは2014年1月、再びCDRCなどと連携し、トタンや材木などの資材と工具類を組み合わせた住宅修復キットを配る事業を始めました。対象はレイテ島カリガラ町の約700世帯。被災者がキットを使って適切に修復ができるよう、講習会を開く予定です。

PWJのフィリピン支援チームを率いる齋藤雅治は言います。「想像を超える大惨事にも屈しない人の姿には勇気づけられます。被災した人々が新たなステップを踏み出せるように後押しすることが、私たちの仕事だと考えています」

被災地は、1月後半に発生した熱帯低気圧の影響で、テントの一部が壊れたり、収穫間近の穀物が流されたりと、いっそう厳しい状況におかれています。PWJは、被災者が一日も早く日常生活を取り戻せるよう、とりわけ高齢者や障がい者、母子家庭などの社会的弱者に配慮しながら支援を続ける計画です。



PWJが配布したビニールシートが
屋根代わりに

支援のプロを、世界の現場へ

2013年度(2013.2.1-2014.1.31)のPWJ活動一覧

イラク

2011年以降、シリアから多くの人々が国内の混乱を逃れてイラク北部に避難しました。特に13年8月以降、短期間に6万人以上のシリア難民が流入し、避難施設や食糧、子どもたちの教育機会を確保することが緊急の課題となりました。そのため、PWJは7,500世帯のシリア難民に対して緊急食糧の配布、イラク北部の6つの難民キャンプで7校の仮設小学校建設、キャンプで生活する子どもたちへ冬用コートの配布などを行いました。PWJは14年もシリア難民への生活支援を行うとともに、イラク北部開発支援の一環となる、教育環境の改善や人材育成支援も続けていきます。

PWJの食糧配布を受ける人々



アフガニスタン

2013年3月から、アフガニスタンの市民社会を代表するCivil Society Organization(CSO)ネットワーク組織の能力を強化するための事業を、日本の3つのNGO(難民を助ける会(AAR Japan)、日本国際ボランティアセンター(JVC)、シビルソフィア(CS))と連携して実施しています。14年3月からは、組織が助成金などを獲得し、プロジェクトを運営するための実務的なノウハウを中心に研修を進める予定です。

モンゴル

PWJが運営していた児童保護施設「ホッタイル」から「ベルビスト・ケアセンター」に引き取られた子どもたちへの支援を継続しています。2014年1月現在、3人がセンターで生活しています。

ミャンマー

2013年9月、タイと国境を接する南東部のカレン州州都バアンに事務所を設置し、給水事業を開始しました。本事業では、井戸の数が少なく、乾季に十分な水量が確保できない村に井戸を新たに建設し、井戸はあっても水質を確保する設備が整っていない村では、井戸の改築、修繕を行います。同時に、村人が井戸を清潔かつ長く使用するための研修や、衛生知識向上のための研修も予定しています。安全な飲料水は生きていいく上で必要不可欠なものです。戦闘を逃れ故郷を離れていた人々が安心して帰還できるよう、PWJは14年も安全な水の供給を続けていきます。



南スーダン

2006年から継続的に行っている井戸建設は200本を超え、13年はジョングレイ州で最もアクセスが難しいとされるファンガック郡にて13本の井戸を建設しました。帰還民が多い同州アヨド郡ジエッチ村では、学校・クリニック・トイレを建設しました。また、反政府軍と政府軍の抗争で被害を受けた村々を訪問し、国連や他のNGOとともに生活必需品を2,700世帯へ配布しました。南スーダンでは、13年末の軍内の抗争をきっかけに難民・国内避難民が増えていますが、PWJは14年も、水不足や病気の蔓延が懸念される避難キャンプで支援活動をする予定です。



PWJの水井戸

ケニア

2012年からソマリア国境近くに位置するダーダープ難民キャンプで支援を続けています。13年は、最低限の居住空間を整備するために仮設住宅を2,870戸建設し、衛生環境向上事業として、家庭用トイレを1,400基建設しました。いずれの事業もより厳しい状況に置かれている世帯を優先し、地元住民及び難民と協働して実施しました。14年度も引き続き、ダーダープ難民キャンプで仮設住宅建設を中心とした事業を実施します。



PWJが建設した仮設住宅

フィリピン

→1面参照

スリランカ

2009年の内戦終結で避難民キャンプから故郷へ帰還した人びとの生活再建を図るため、東部トリンコマレ県において生計向上支援事業を行っています。13年度は、稻作に必要な貯水池8箇所の修復、農業技術の研修、落花生やトウモロコシなど換金作物の種子配布を実施したほか、5つの酪農家組合に対して研修や改良種乳牛の提供を行いました。14年度以降は、生活を立て直しつつある同地域の農民が農業で自立していくよう、様々な実務者を巻き込んだ発展的な事業を実施していきます。



乳牛の提供に立ち会うPWJ谷口(右端)と栗本(中央)

東ティモール

コーヒー生産者の生計向上支援を行っている東ティモールでは、同国内でのビースコーヒーの販売を始めました。これまでインドネシア産コーヒーを消費することが多かった東ティモールの人からは、「自國でとれるコーヒーはこんなに美味しいのか!」と驚きの声が。「国产」の高品質コーヒーが今までなかったこともあり、今ではビースコーヒーが大人気になっています。2014年は様々な実務者と協働し、世界市場に東ティモール産コーヒーの魅力を広める活動も始める予定です。



東ティモール国内でのエキスポに出演

日本

東北

2013年、復旧復興に向けた公共事業が進む東北で、PWJはコミュニティの絆を強化する活動に取り組みました。宮城県南三陸町では、子どもたちを対象に実施してきた体験学習事業に加え、高齢者や障がい者の活動場所となる施設の建設を開始しました。気仙沼市では、現地NPOと共同で開催した町おこしイベントや、物販と体験学習による環境保全の取り組みなど、地域再生を図る事業を支援しています。岩手県陸前高田市では、広田町自主防災会と連携して地域防災力を高めるための震災記録誌を作成し、広田町の全戸及び市内の集会所などに配布しました。福島県では、長期化する仮設住宅での生活を支援するため、被災ペットの保護活動などに取り組んでいます。



住民有志との会合の様子

広島

広島県神石高原町を拠点に、災害救助犬の育成、セラピー犬による高齢者施設や学校の訪問を続ける一方、県内の犬の殺処分ゼロをめざした「1000日計画」を打ち出し、犬の保護・譲渡活動を本格化させました。また、観光の振興を軸とした地域活性化の取り組みに着手し、そのための子会社を設立するとともに、地元の事業者らによる観光コミュニティパークの計画づくりを支援しました。「神石高原マルシェ」などのイベントの企画・運営にも力を入れました。収益事業として、ドッグラン、ドッグホテルなどの運営や、健康と環境に配慮した食品のカタログ販売を継続しました。



保護犬の譲渡会の様子